

弘前ねぶたまつり(8月1〜7日)で運行しているねぶた団体の情報や特徴を分かりやすく紹介しようと、弘前大学の学生団体「ねぶたVisitors(ビジターズ)」が今夏、ウェブアプリ「ねぶた図鑑」を開発した。全69団体を掲載予定で、まつりの際に見たねぶたや気に入ったねぶたを登録することができ、日本語を含め七つの言語に対応。同団体代表の理工学部4年高橋那斗(たけはし なと)さんは「自分なりの図鑑を作って楽しんでほしい」と話している。

アプリは、2022年から弘前などが運用する「ねぶた位置情報システム」と連動。同システムでは、ねぶた本体の空きスペースなどに衛星利用測位システム(GPS)を搭載した専用の機材を置いておくと、運行中のねぶたがどこにいるかがウェブサイト上で

## 自分で作る「ねぶた図鑑」

### 弘大学生団体 アプリ開発



ウェブアプリ「ねぶた図鑑」を開発した高橋さん(下段右)らメンバー

### 運行情報など紹介

分かる。25年はまつり期間中の1週間で3万5千件を超えるアクセスがあったという。高橋さんは、ねぶた位置情報システムを活用し、まつりに関するさらに使いやすいアプリを開発したいと、今年4月に団体を立ち上げた。

アプリは英語や中国語、タイ語などに対応。出陣するねぶたを写真付きで紹介し、運行団体やねぶた絵の情報も載せる。検索機能もあり、大型、小型、扇、組などのねぶたの型や、団体名、運行日などからねぶたを絞り込むことができる。

高橋さんは「今日はどのねぶたが見られるかが一目で分かり、まつりが終わっても、ねぶたをたくさん見た思い出がよみがえってくると思う。ぜひ推しのねぶたを見つけてほしい」とPRした。

位置情報システムの運用に協力する弘前市のIT企業「ミームテック」の高野光副社長(40)は「IT技術でねぶたに参画する人を増やそうと開発したシステム。学生が活



「ねぶた図鑑」の団体紹介ページのイメージ

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科 E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp